

## 「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 8 日（火）14:00～15:20

国土交通省ハッ場ダム工事事務所川原湯総合相談センター

発言者：意見発表者 7

皆さんこんにちは。私はあの長野原町の●●に住んでいます●●●と申します。職業は農業です。また現在長野原町議会議員として三期目を務めさせていただいております。今から 10 年ほど前ですが、だいたい 2000 年西暦 2000 年くらいですけども、川原湯に当時の超党派の国会議員の方達で作っている公共事業チェックの会という方が調査に参りました。十数人の複数の国会議員が一度に来たというのは、後にも先にもあの時が最初で最後であったかなと思います。●●さんをお借りして、夜は意見交換に地元の人も含めて 50 人ほどが集まりました。まあそのことをきっかけに、多くの研究者の方や学者の方、あるいは国会議員の方達といろいろと情報交換をする機会ができて、そういうなかで、10 年にわたってハッ場ダムについて勉強させていただいてきました。そういう経験を踏まえて、私はハッ場ダムの建設に反対する立場で意見を述べたいと思います。今回の素案には多くの問題が含まれています。まずあの水需要が実際には減っていることが分かっているながら、そのことについて全く考慮しないで、各都道府県の需要要求に基づいたまま、検討がされている点です。東京都の例を挙げれば 1992 年から減少に転じています。2010 年では実績は 1 日 490 万立方メートルということになっています。しかも東京都の保有水源は大変多く、本来であれば含めるべき地下水を保有水源に含めていません。これは全くおかしい話でして、私たち素人が考えるには地下水ほど安定した水源はないというふうに考えます。しかしこれが約 45 万立方メートルあるそうですが、これが保有水源には含まれていません。こういうもつて検証された水需要の予測というのは全く当てにならないというふうに思います。次に基本高水の問題です。前々より多くの研究者からこの基本高水が高すぎるのではないかという指摘がされてきました。そしてカスリーン台風が来た頃、戦争中に切り払った山がすべてはげ山のような状態であったときの流量とかを、今森林が育った現在の森林の保水力とかを含めないまま計算をしているということが指摘されています。また今回あの示された目標流量は 17,000m<sup>3</sup>/s なんですか、単位はちょっと忘れましたが、17,000m<sup>3</sup>/s ですね、しかし洪水の実績過去 60 年の中で、最大は 9,200m<sup>3</sup>/s だという結果が出ています。こういうところから見ても 17,000m<sup>3</sup>/s というのはあまりにも多すぎるんで、これは少しおかしいんじゃないかなって思っています。次に堆砂の問題です。これはあの、素案の 4 の 6 ページ、7 ページにそのことが書かれているのですが、読んでいくとどうもよく分からないですね。基本的な考え方には経験式といわれる方式で三方式、江崎方式、きちよしと読まれるんですか吉良（きら）方式というんですか、ちょっと読めないんですが、それから石外式という三つの経験式、それから吾妻川の既設砂防ダムの実績といって根広第一堰堤、それから白砂川第一堰堤というのが実績として載っています。このデータは今から 40 年ほど前の数字を使っています。で、もともとあのハッ場ダムのような 1 億 m<sup>3</sup>/s も 1 億 7 千 700 万 m<sup>3</sup>/s ですか、そういう大きなダムの堆砂を推測するのに、どうしてこんな山の中の砂防ダムなんて使うのか、非常に不思議でありませんでした。砂防ダムはご存じのとおり、堰堤の中央部が切っておりまして、洪水が出たときに、ある意味その堰堤を越水させて中に重たい土砂をためるそういう仕組みのダムです。しかもその切れ込みのある溝の下は穴が空いているんですね。だいたいいろいろダムの構

造によって様々あるんですけど、私が最近 11 月の 4 日の日に六合村のこの旧六合村にあるこのダムの調査に行く前に横壁の 406 号を登って行く途中のまだできたばかりの最新鋭の砂防ダムがあります。これの構造をよく見ました。すると真ん中の洪水吐けのための溝の下にはかなり太いパイプで何本も穴が開けられています。それはダムの内側と外側をつなぐ例えば粒径の小さいものと細かい砂とかは当然排出されるような構造になっているように私は感じました。

さて、こういうなかで六合村に調査に行ったわけなんです、ここに書いている根広第一堰堤、白砂川第一堰堤というのが、いったいどこにあるのかよく分かりませんでしたので、旧六合村の役場に寄って聞いてみました。ところが驚いたことに六合村で生まれて何十年も六合村にいて役場の職員やっている人が根広第一堰堤とか白砂川第一堰堤とかいうそんなダム知らないっていうんですね。いったいどこにあるのか結局分からなかったんです。このような得体の知れないダムの、しかも 40 年前の数値を使ってほんとに八ッ場ダムの堆砂が予測できるのでしょうか。不思議でなりません。そもそもその地元に生まれて何十年もたってる人が知らないようなダムを使うということからして、なんか嘘くさいという感じが私はしています。ただ六合村まで行って、ダムを見ないで帰るわけにはいきませんので、六合村にある 4 つのダムを見てきました。一つはまあこのここに書いてある根広という地区の集落の下に砂防ダムが一基あるというので、しかもそれは道から見えるというからまずそれが一つある程度大きな砂防ダムなので、これを使っているのかなというふうに予想を付けて行ってきました。もう一つがこれはただ砂防ダムではないんですけど六合村で水の貯まっているダムといえば野反ダム、品木ダムで次に大きいのが白砂ダムです。使うとすれば特徴から考えて白砂ダムだとふんでこれを見てきました。ただこの根広の砂防ダムにしても白砂砂防ダムにしても大きさが極めて小さいんですね。八ッ場ダムが 1 億 700m<sup>3</sup>/s に比べて、たかだか 10 万 m<sup>3</sup>/s にも満たない 0.1% にも満たない 1000 分の 1 以下のダムです。しかも砂防ダムと言うのはさっき言った通り簡単に越水をして小さい粒子の物は吐き出してしまふ仕組みで出来ています。それから白砂ダムは、東京電力が川中発電所に水を送る目的で造った取水ダムです。確かに構造は砂防ダムとは違います。しかし基本的に洪水調節とかあるダムではないので川幅いっぱい水門が出来ています。洪水の時にはこれを開ければ大量の水が、また中に貯まった土砂も排出する事が可能なダムです。しかも発電用の取水堰と言うのは基本的に取水口と排水の水門とが近くにありますが、これはしかもその高さは排水の水門の方がずっと低いところまでできています。私は素人ですから何でかはよく説明が出来ないんですけども、おそらく流れ着いた土砂が取水口に詰まるのを防ぐには、こういう構造をとって洪水の時に水門を開けることでその辺はきれいに流れ去るという構造になっているのではないかとこのように推測しました。以上のことから考えてもこの堆砂の計算というのはどうもおかしいと思いました。ちなみに 9 月 23 日の『知っていますか八ッ場ダムの真実』というシンポジウムの中の資料を見ますと、ここに別の研究者の方が試算をした堆砂の予測が出ています。この方は利根川水系の既設の巨大ダム、矢木沢、奈良俣、草木、下久保などの実績を出してその中の川の中流域にあり一番堆砂の進むのが激しい下久保ダムのデータを基に試算しています。それで試算をすると驚くことに八ッ場の 1750 万 m<sup>3</sup>/s の 100 年分の堆砂容量はわずか 30 年で埋まってしまふ事になります。また、55 年後には夏季利用水量が半減して 80 年後には夏季利用水量が無くなるという試算が出ています。今回の素案で 4 の 7 ページを見ると八ッ場ダムの堆砂の推測が妥当かどうかを判断する為の検討フローが出ていますが、これの一番最初に近傍類似ダムの選定と言うのがあります。これについて何の記述もありません。おそらくこれがさっき私が見に行ったと言った六合村のどこかのダムなのでしょう。この辺のダムがいったいどこにあるのか。使った数字は誰がどういう前提条件のもとにどのような方法で測定したものかを速やかに明らかにして説明をすべきだと思います。それから次に地すべ

りの問題なんです、今回の検証で唯一私がちょっと評価しているのはこの点なんです。それは今まで議会の八ッ場ダム対策会議で再三に渡って地すべり対策費はいくらだと言うことを聞いてたんですが、なかなか答えてもらえなかったんですが、今年の3月でしたか6月でしたか22箇所危険箇所がある内の3箇所で10億円だと初めて聞きました。私は、10億円では足りないだろうと研究してきたのですが今回、この資料が出ることによって明らかに10億円では足りない、一気に149億円と言う値が出てきました。12月の定例議会の八ッ場ダム対策議会では、その辺について納得のいく説明をしてもらえるものと思っています。あと2分になってしまったので素案についてはここで終わりにして最後に皆さんもご存じの通り10年前にこの八ッ場地区、それから川原湯温泉の状況がどうであったかというのを思い浮かべて頂きたい。今、是非帰りには川原湯温泉の状況を見て帰って頂きたい。当時あれだけあった旅館が今は巨石だけ残してほとんどありません。しかも旅館に住む人たちは未だに移る先ができていないんです。去年、八ッ場ダム対策会議で国土交通省は24年5月までには代替地で蛇口をひねれば温泉が出るようにすると約束していました。しかしここに来て出来るのかと聞いても正直答えない。これは地区の人たちの話し合いが出来ればと言っているだけで本当にそうなのかと言うことは私は知りたところなんです。もしそういう事であれば我々議会もそれから町ももっと本腰を入れてそのことについて取り組まなければいけません。少なくともこの10年補償交渉が妥結してからどンドンどンドン激しく人口流出する事に対し為す術もなく今日に至った行政の責任は重いと思います。行政と言うのは国、県そして町、我々議会も含まれています。今後一番早く生活再建を進める方法は速やかにダムを止めてすべての予算すべての力を生活再建に注ぎ地元の人たちとの話し合いの中でこれまでダムが出来ることによって補償されていた基金事業それから水特の事業についてすべて国が責任を負ってやるということを証明して国に向けて行くべきだと私は思います。言うことはだいたい言いましたのでこのくらい言えれば良いのかなと思います。とにかく生活再建の問題、それから代替地の安全の問題については妥協する事なく今後も追求をしていく決意を述べさせて頂きまして私の意見とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

以上